

平成 28 年度末に派遣を修了した大学院派遣教員に係る実践研究報告書 ～テーマ：学習スキルを教科横断的に活用する方策～

四万十市教育研究所 山崎 美樹

1. 課題分析

(1) 課題設定の理由

「探究のプロセス」を意識した授業では、課題設定の仕方、情報収集の仕方、情報の整理と分析の方法、まとめ方や発表の仕方などの学習スキルを、生徒が身に付けているという前提で学習が進められる。しかし実際には、各教科で学ぶこれらの内容が、教科横断的に活用できるスキルとして十分に身につけていない場合が多い。

この学習スキルをどの場面でも使えるものとして確実に身につけさせることができれば、授業における探究的な学びの質が高まると考え、本研究課題を設定した。

(2) 情報・メディアを活用する「学び方の指導」

次期学習指導要領では、言語能力や情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」としている。これらの能力は、国語科のみならず教科横断的に活用すべきものである。その手立ての一つとして注目したのが、学校図書館教育における「情報活用スキル（学び方）」の効果的な指導である。

佐藤（2016）は「学び方の指導」を効果的に行うために必要な条件として、学校図書館が「学習・情報センター」として機能するものであることと、教職員が「学び方の指導」について理解していることを挙げている。市の学校図書館がこの条件を満たすことをゴールイメージとし、それによって子どもたちの探究的な学びを充実させていきたい。

2. 市の現状と課題

(1) 学力調査質問紙から見る「情報活用」の課題

全国学力・学習状況調査の質問紙調査（生徒質問紙・学校質問紙）からは、調べたことを整理して発表するといった学習活動が取り組まれていながら、調べ方や発表の仕方についての指導が計画的に進められていないという市の課題が見えた。

(2) 学校図書館教育の実態

市では学校図書館教育担当者会を年に 3 回実施し、講師を招いた実務研修や先進校視察、図書支援員による学校図書館整備の協同実施などの研修が行われている。しかし、研修における学びを自校の学校図書館に生かすことが難しく、特に図書支援員や司書教諭の配置された 7 校と、配置されていない 18 校の差は大きかった。その中でも、学校図書館の環境整備と授業における活用に課題があった。

3. 課題解決に向けた取り組み

(1) 研究の概要

これらの課題をもとに研究のゴールイメージを次のように定め、具体的な取組について計画した。

- ①市小中学校の学校図書館を「学習・情報センター」として機能するように整備する。
- ②市小中学校において、学校図書館を活用した「学び方の指導」を充実させる。

(2) 学校図書館の環境整備

市内小中学校の学校図書館を「学習・情報センター」として機能するものにするために「学校図書館整備（ブロック別）研修」（以下、「ブロック別研修」）を実施した。これは、市内 25 校を五つのブロックに分けて会場校を決め、ブロックごとに集まって学校図書館整備を行うものである。

内容は全てのブロックが「書籍の分類と除籍」を選んだ。まずは市立図書館から招いた講師による、資料の分類や本の配置、除籍の基準等の講話があり、その後で除籍作業を一緒に行った。市に配置されている 6 名の図書支援員と 1 名の司書教諭の支援もあり、担当者同士で相談しながら作業を行うことで、これまで進まなかった環境整備が大きく前進したようであった。整理前は古い本がぎっしり詰まっていた棚が適度に空き、面出しされた本が興味を引く図書館になった。

研修後のアンケートによると満足度も高く、別の学校を会場校として来年度もやってほしいという声が大変多かった。

(3) 「学び方の指導」の充実

授業で学校図書館を活用するためには、環境整備と同時に子どもたちに対する「学び方の指導」を確実に行うことが必要である。そのための実践として、講演会と提案授業について述べる。

① 講演『楽しく進める「学び方の指導」』

子どもたちに「学び方」の指導を行う前に、まずは教師がそのイメージを具体的なものにしておく必要がある。そこで市の学校図書館教育担当



写真1 整備作業の様子



写真2 作業後の書棚

者会において、「学び方の指導」を長年にわたって実践してこられた佐藤敬子先生（全国 SLA 学校図書館スーパーバイザー）を招いて講演会を開催した。

講演では、著書『楽しく進める「学び方の指導」』をもとに、佐藤先生の実践を具体的に紹介していただいた。講演後のアンケートからは、参加者が「学び方の指導」の重要性を理解し、具体的に何をすればいいのかというイメージが生まれ、更にはその取組を担当者一人だけではなく、学校全体へ広げていくという教科横断的な視点やチームで取り組む意識が生まれていることが見て取れた。

② 学校図書館を活用した「学び方の指導」授業
「学び方の指導」についてのイメージをより具体的なものにし、各校での実践につなげたいと考え、上の講演会で紹介された授業を所属校の中学校にて実際に行うことにした。

この授業は「何かを調べるとき、まずは百科事典から」という基本を、実践を通して楽しみながら身につけさせるものである。百科事典の使い方については小学校で学ぶが、他の参考図書の使い方も含め、中学校入学のタイミングでもう一度確認しておいた方がよいと考えた。

1) 授業の様子

授業前アンケートでは、これまで百科事典を継続的に使ってきた生徒は15%程度しかいないことが分かった。そこで第1時では、『調べ学習紙芝居「百科事典の引き方」』を使って確認を行い、情報カードへの記録の仕方についても説明と練習を行った。



写真3 百科事典の引き方説明



写真4 個人で「31の謎」に挑戦

第2時には「〇〇中 学校図書館 31の謎」を行った。これは、百科事典をはじめとする学校図書館の参考図書を活用して「謎」を解き、答えを情報カードに書き出していく学習活動である。事前にその学校の学校図書館に合わせて問題を調整してある。

「謎」の中には記述を注意深く読む必要があったり、複数の参考図書を調べなければならなかったりするものもあり、苦勞している生徒もいた。しかし、その分の達成感は大きく、1枚しか仕上がらなかった生徒も満足そうな顔であった。

2) 成果と課題

この授業では、アンケートからも生徒が学ぶ楽しさを感じてくれたことが分かった。しかしそれ以上に、「百科事典を正しく使い、情報を得ることができるようになった」という問に対する肯定的回答が95%を超えたことが成果であった。

この授業で特に重要なのは、この学びを国語の授業で終わらせず、各教科・領域の学びにおいて活用することである。それによってはじめて、調べ方についての学びが本物の技能として生徒たちの力になる。そのためにも、今後は他教科の先生方と授業内容の共有を図る必要があるだろう。

4. 成果と課題の整理（今後の見通し）

(1) 成果

まず学校図書館の環境整備については、「ブロック別研修」を通して各校の整備が進んだことが挙げられる。年度末に行ったアンケートによると、会場校はもちろん、その他の学校でもこの研修をきっかけにして整備に着手した担当者がいたようである。来年度も担当者のニーズをもとに、市内学校図書館が「学習・情報センター」としてよりレベルの高いものとなるように研修を進めていきたい。

(2) 課題

一方で「学び方の指導」については、その重要性や実際のイメージが十分に広がっていないことが課題である。今年度行った講演会についても、学校図書館担当者以外の参加は少なく、教科横断的に進めていく必要のある内容でありながら、一部の理解しか得られていない。

また市では平成28年度末に「学び方指導体系表」を作成しているが、その共有・活用はまだほとんどできていない。この活用についても早急に考える必要がある。

(3) 今後の見通し

「学び方の指導」を全ての教職員にどう意識づけ、実際の指導に繋げていくのか。来年度はこの課題に取り組んでいかなければならない。更にもう一つの視点としたいのが、各教科で学んだスキルを意図的・計画的に活用させる場をいかにコーディネートするのかということである。各教科の単元をつなぐことも考えながら、特に活用場を設定しやすく、学校全体の共通理解も図りやすい総合的な学習の時間に注目して、子どもたちの情報活用力を鍛える手立てを具体化していきたい。

《参考文献》

- ◆文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
- ◆佐藤敬子（2016）『楽しく進める「学び方の指導」』、全国学校図書館協議会
- ◆赤木かんな（2012）『先生のための百科事典ノート この一冊で授業が変わる！』、ポプラ社